

【西会津町】 校務 DX 計画

文部科学省では、令和5年3月に「GIGA スクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言を取りまとめ、次世代の校務 DX の方向性を示した。ここでは、今後数年かけて校務系・学習系ネットワークの統合と次世代の校務支援システムの整備を行うとともに、クラウド活用を前提とした GIGA スクール環境の積極的な活用により、教職員や校内・校外の学校関係者、教育委員会職員の負担軽減・コミュニケーションの迅速化や活性化が可能であるとしている。

また、「教師を取り巻く環境整備について緊急的に取り組むべき施策（提言）～教師の専門性の向上と持続可能な教育環境の構築を目指して～」(令和5年8月中央教育審議会初等中等教育分科会質の高い教師の確保特別部会)においても、1人1台端末の積極的な活用や、汎用のクラウドツールを活用した教職員間での情報交換の励行や会議資料のペーパーレス化、民間企業向けクラウドツールの転用による校務処理の負担軽減を図るとともに、スケジュール管理のオンライン化や、学校と保護者間の連絡手段を原則としてデジタル化するなどの取組を進める必要があるとしている。

これらを踏まえ、本町の校務 DX 計画として以下のとおり推進する。

1. クラウドツールの活用

教職員と児童生徒、教職員と保護者、教職員と教職員の連絡について、クラウドツールを活用した業務を推進する。特に、児童生徒からの課題提出、保護者からの書類受付や日程調整等の場面での活用を推進する。

2. FAX・押印の見直し

災害時やネットワークの不具合時など、FAXの方が効率的な場合を除き、FAXの原則廃止を検討します。

また、学校から保護者に提出を求める文書や教育委員会から学校に提出を求める文書等のうち、特に必要があるものを除き、押印の廃止に向け取り組みます。

3. 校務支援システムへの名簿情報の不要な手入力作業の一掃

児童生徒の欠席等に係る連絡については、クラウドサービスを用い、PCやモバイル端末等から受けられる体制の構築を目指します。

4. 配付物のペーパーレス化

紙媒体での配付が必要な場合を除き、学校から保護者への配付物についてメール配信を推進し、ペーパーレス化を進めます。